「D-Rockers テーマ別対話会（第 1 回：応援）2026-27」議事録

【開催日時】2026 年 9 月 25 日（金）15 時 30 分～17 時 00 分

【開催場所】浦安 D パーク ミーティングルーム

【参加者】

・Club D-Rockers 有料会員の皆さま　24 名さま

・株式会社 NTT Sports X　マーケティング部　担当者

・株式会社 NTT Sports X　マーケティング部　薄隅 雄樹

・株式会社 NTT Sports X　金 嶺志（元浦安 D-Rocks 選手）

・浦安 D-Rocks オフィシャルチアリーダーズ D-Rocks Cheerleaders　ディレクター　大嶋 夏実

【アジェンダ】

1. 2026-27 シーズン 応援演出の方向性

-応援コンセプト

-応援コール

-選手紹介の演出

-応援動作

-クラブアンセム

2. 対話タイム（前半・後半）

【議事録】

1. 2026-27 シーズン 応援演出の方向性

■2025-26 シーズンの振り返り

（浦安 D-Rocks）

2025-26 シーズンは、ラインアウト・スクラム・オフェンス・ディフェンスの場面ごとに応援コールを展開し、D-Rocks Cheerleaders（DRC）や MC による応援リードを通じて、応援が「観戦」から「参加」へと広がりました。一方で、「コールが多く覚えきれない」「音楽が止まると応援を続けにくい」「みんなで歌える応援歌がほしい」といったご意見もいただきました。こうしたファンの皆さまのご意見を踏まえ、2026-27 シーズンの応援演出の検討をはじめました。

■選手ヒアリング結果

（浦安 D-Rocks）

選手へのヒアリングを行ったところ、求められているのは「静かにしてほしい」ではなく、味方を助け、相手を圧倒する「ホームアドバンテージ」であることが分かりました。そのため、試合前から試合後まで、インプレー中も含めて応援を継続する方針とします。
ただし、マイボールのラインアウトとキックの場面では、会場の演出音を控えます。また、個人名のコールはクラブ主導では行いません。こうした応援スタイルは、レギュラーシーズン開幕前に皆さまへお知らせしてまいります。

（金）
応援は選手の背中を押し、試合結果を左右するほどの力になります。マイボールのラインアウトでは、サインで投げる位置や跳ぶ選手を味方に伝えているため、会場の演出音を控えさせていただきます。キックの場面では、キッカーへのリスペクトとして静かに見守ることが世界共通のマナーです。

■応援コンセプト

（浦安 D-Rocks）
2026-27 シーズンの応援コンセプトは「ROCKS TIME」（仮称）です。「気づけば、叫んでいた。我を忘れる、80 分。」をテーマに、誰もが思わず声を出したくなる観戦体験を目指します。
応援をお願いするのではなく、演出によって自然に声が上がるきっかけをつくるため、「静と動を踏まえたホームアドバンテージ演出」「誰でも参加できるシンプルな応援」「誘導ではなく、ご案内」の 3 つを原則とします。

■応援コール

（浦安 D-Rocks）
応援コールは「増やさず、減らす」方針とし、覚えるコールを次の 3 つに絞ります。
①「手拍子＋U・RA・YA・SU」（選手入場・ラインアウト、BGM：ゾンビネーション）
②「GO D-Rocks」（スクラム・攻撃時）
③「D-Rocks＋手拍子」（どの場面でも使用可）
昨シーズンに親しまれた「U・RA・YA・SU」は継続し、聞き分けにくいとのご意見をいただいた「ディフェンス」と「D-Rocks」は「D-Rocks＋手拍子」に統合します。「GO D-Rocks」のテンポは 1 つに固定します。手拍子を中心とした「D-Rocks＋手拍子」は音響がなくても続けられるため、ビジターゲームでもお使いいただけます。

■選手紹介の演出

（浦安 D-Rocks）
選手入場前の選手紹介映像は、選手の「GO!」に皆さまが「D-Rocks!」で応える、選手とファンが一体となって声を出せる形を目指します。静止画から選手本人の声が入った動画に変更し、ポジションやキャッチコピーなど人

柄が伝わる情報を加えるとともに、遠い席からも見やすいデザインにします。また、テロップ・映像・MC で「今なにを言えばよいか」をご案内します。

■応援動作と応援タイミング

（浦安 D-Rocks）

誰でも参加しやすい応援動作として、選手入場やピンチの場面で手やグッズを高く「掲げる」、トライの喜びを表現する「振る・回す」の 2 つを設定します。「掲げる」は声を出さなくても、座ったままでも参加できます。「振る・回す」は、今後販売を検討している D-Rocks 応援グッズのほか、タオルやフラッグ、帽子などでもご参加いただけます。

開場時は定番 BGM でのお出迎え、選手入場時は「掲げる」、トライ後は「振る・回す」、勝利時は定番 BGM で喜びを分かち合う流れとし、BGM を合図に初めての方でも参加しやすい仕組みとします。

■クラブアンセム

（浦安 D-Rocks）

「みんなで一緒に歌える曲がほしい」という皆さまの声にお応えし、初めての方でもその場で歌えるクラブアンセムの制作を検討しています。聞き馴染みのある曲をベースに、浦安と D-Rocks への想いを込めたオリジナル歌詞とし、選手入場の直前など気持ちが最も高まる場面で、ビジョンへの歌詞表示や MC のご案内により、皆さまで一緒に歌える形を目指します。

2. 対話タイム（前半・後半）

■応援コンセプト

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「ホストゲームでは DRC の皆さんが応援を先導してくださいますが、ビジターゲームでは先導役がおらず、リーダー役の方も毎試合来られるとは限りません。どの会場でも同じように応援できるのか不安があります。」

（浦安 D-Rocks）

ビジターゲームで応援がそろいにくいのは、浦安 D-Rocks の応援が十分に浸透していないことが要因の一つと認識しております。今シーズンは応援コールを絞るとともに、公式サイトや YouTube、SNS で応援方法を事前に発信し、ビジターゲームを含めどの会場でも同じ応援ができる環境づくりに取り組んでまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「入場時の『U・RA・YA・SU』は大好きです。一方でスクラムの場面は物足りなく感じます。押し合う場面に

合った、皆さんが声をかけやすいシンプルなコールがあると良いと思います。」

「応援は定着までに時間がかかるため、一度決めたら毎年変えず、シンプルに続けてほしいです。昨シーズンのプレシーズンマッチで行った体を動かす応援が、本番でなくなってしまったのは残念でした。」

（金）

スクラム時の応援については、いただいたご意見を参考にさせていただきます。プレー中の声援は選手には聞こえにくいものの、会場の盛り上がりは選手にも伝わっており、選手ヒアリングでも盛り上がった会場でプレーしたいという声が挙がっています。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「応援の仕方をまとめたカードを配っている他クラブがありました。特にビジターゲームでは、初めての方にも分かりやすいと思います。」

「応援のスタイルやタイミングが分かるものがあれば、初めての方も参加しやすいと思います。」

「紙だけでなく、スマートフォンで見られるデジタル版もあると、なくさずに毎試合確認できます。」

（浦安 D-Rocks）

いただいたご意見も参考にしながら、紙やデジタルなど、皆さまが応援の方法を確認しやすい環境づくりについて検討してまいります。

■応援コール

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「マイボールのラインアウトは演出音を控えるというお話がある一方で、ラインアウトで『手拍子＋U・RA・YA・SU』を使うとあり、矛盾しているように感じます。応援がプレーの妨げになっては本末転倒なので、整理してほしいです。」

（金）

マイボールのラインアウトの場面では会場の演出音を控えますが、皆さまの声援まで止めていただく必要はありません。ファンの皆さまには、引き続き選手の後押しとなる応援をいただければ幸いです。

（浦安 D-Rocks）
マイボールのラインアウト時の演出については、昨シーズンいただいたご意見を踏まえて改善を進めてまいります。「U・RA・YA・SU」の使い方は、プレシーズンマッチで試行し、選手の意見も伺いながら、盛り上がりと選手へのリスペクトのバランスを見極めてまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）
「ビジターゲームで、ホストチームが相手側のコールを事前に練習する演出があります。ラグビーにはお互いをリスペクトする精神があるので、そうした点も大切にしてほしいです。」

「ラグビーは本来、どちらのファンかを問わず混ざって観戦する文化です。ラインアウトで相手の邪魔をするようなチームには、D-Rocks はなってほしくないと感じています。」

（浦安 D-Rocks）
相手チームへのリスペクトはクラブとしても大切にしている考え方です。いただいたご意見も参考にしながら、ラグビーならではのリスペクトの精神を踏まえた応援演出に取り組んでまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）
「会場の規模によって、手拍子や DRC の先導の届き方が異なり、会場全体で一体となって応援できる機会が少ないと感じています。会場ごとの条件も含めてご案内いただけると良いと思います。」

（浦安 D-Rocks）
いただいたご意見を参考に、会場ごとの応援のご案内について検討してまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）
「SNS が媒体ごとに分かれていて、観戦前にどこを見ればよいか分かりません。応援のレクチャーを発信する際は、確認先を案内してほしいです。また、応援時に掲げるポーズのようなものがあると良いと思います。」

「応援の仕方が分かるショート動画や YouTube 動画があると良いと思います。K-POP ではアーティスト自らが声出しをレクチャーし、大規模な会場でも声がそろっています。新規の方が多い試合の前などに、繰り返し発信してほしいです。」

（浦安 D-Rocks）

いただいたご意見を参考に、応援方法のレクチャー動画をはじめとした事前の情報発信や、確認先の分かりやすいご案内について検討してまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「スクラムは組んだ後は声が届きにくいと思いますが、組む前の場面で何か応援ができると良いと思います。大事な場面なのに流れてしまっている印象があるので、盛り上げてほしいです。」

（浦安 D-Rocks）

スクラムを組む前の場面の盛り上げ方について、いただいたご意見を今後の参考とさせていただきます。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「覚えるコールが 3 つになったのは、分かりやすくて良いと思います。昨シーズンは種類が多く、声を出すことに追われていました。シンプルになると、新しい方も参加しやすいと思います。」

（浦安 D-Rocks）

温かいお言葉をいただきありがとうございます。初めての方にも参加しやすいシンプルな応援づくりを進めてまいります。

■「GO D-Rocks」コールのテンポについて

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「速すぎても遅すぎても乗れないので、自然に乗れるテンポが良いと思います。」

「テンポが速すぎると、口が疲れてしまいます。」

「スクラムと攻撃時は同じテンポなのでしょうか。速すぎると、選手が急かされているように感じないか気になります。」

（金）

スクラムは選手自身でリズムをとっているため、コールのテンポがプレーに影響することはありません。

（浦安 D-Rocks）

本対話会でいただいたご意見を参考に、皆さまの声が最もそろうテンポに決めてまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「スクラムでは『セット』の声がかかるまでは応援があっても良いと思いますが、組んだ瞬間には止まってほしいと考えています。」

「『GO D-Rocks』の音声が流れるのはプレー前で、ボールが入った後はファンが自然にテンポを保って声を出す流れなのでしょうか。」

「昨シーズンは演出音が続いてしまい、途中で無理にボリュームを下げたように感じる場面がありました。」

（浦安 D-Rocks）

プレーが始まった時点で会場の演出音は止め、その後は皆さまの声援でつないでいただく形としています。インプレー中はビジョンに「GO D-Rocks」の文字を表示するなどの演出も取り入れており、今後も皆さまが声を出しやすい演出を検討してまいります。

■選手紹介の演出

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「選手それぞれに愛称を付けて名前と一緒に表示し、それを呼ぶ形にすると、選手を覚えやすくなると思います。」

「選手紹介動画を公式サイトの選手ページでも見られるようにしてほしいです。出場機会の少ない選手を知るきっかけにもなると思います。」

（浦安 D-Rocks）

いただいたご意見を参考に、選手の魅力が伝わる紹介方法を検討してまいります。

■応援動作

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「フラッグは棒が長く持ち運びにくいため、布と同じ長さのポールでコンパクトに巻けるものが良いと思います。また、選手側に向く面には D-Rocks らしい色を、反対側には『GO D-Rocks』の文字を入れると、後ろの席の方もそれを見て応援できます。」

「くるくる巻けるタイプのものは、荷物に差しておいて必要なときに出せるので、ぜひ商品化してほしいです。」

「タオルは大きすぎると邪魔になるという声もあると思いますが、皆で掲げれば相手にとって脅威になるので、そろえることも必要だと思います。」

「場面ごとにタオルやフラッグを使い分けるのは難しいので、プロ野球やＪリーグのように基本のアイテムを決めておくと良いと思います。」

（浦安 D-Rocks）
いただいたご意見も参考にしながら、持ち運びやすさなどを含めた応援グッズの商品化について検討してまいります。今シーズンは応援にご使用いただくグッズの指定は設けず、まずは応援の浸透と統一を優先してまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）
「掲げる・振る動作に気を取られて、声や手拍子がおろそかにならないか気になります。」

（浦安 D-Rocks）
「掲げる」「振る・回す」は、選手入場やトライ、ジャッカル成功後などのタイミングで行っていただく想定です。インプレー中は手拍子と声援を中心に応援いただき、特にゾンビネーションでの選手入場時に、会場全体で「掲げる」演出をつくってまいります。

（金）
試合中は目に入りにくいものの、試合後に自分の名前が掲げられているのを見ることは、選手にとって大きな励みになります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）
「これまで、見てほしいからではなく『見ているよ』と伝えたくて掲げてきました。掲げるグッズを販売する際は、『見ているよを伝えるためのグッズ』という位置づけにすると、購入のきっかけになると思います。」

「招待などで来場される、必ずしも関心が高くない方々にも、応援に加わっていただける工夫を考えてほしいです。」

（浦安 D-Rocks）

初めてご来場いただいた方も含め、誰もが思わず参加したくなる応援演出について検討してまいります。

■クラブアンセム

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「試合後、結果にかかわらず選手の前で皆で歌うのが一番感動的だと思います。そうした場面に合わせた歌詞にしてほしいです。」

「海外では、試合終盤や優勢の場面でファンから自然に歌が湧き上がっていました。歌う場面はチームが示してほしいですし、選手の意見も聞きたいです。」

「ワールドカップで会場全体が歌っている光景を見て、ああいう雰囲気は良いと思いました。」

「勝ったときに、最後に皆で歌って盛り上がる歌がほしいです。入場前に歌で盛り上げてゾンビネーションにつなげる流れがあれば、選手もファンも盛り上がると思います。」

「大学ラグビーでは試合前に必ず校歌を歌います。浦安が好きな方が多いので、テンポにこだわらず、試合の前後に皆で歌えれば良いと思います。」

「国際試合では大合唱になる曲が印象的です。テンポの速い曲だけでなく、伴奏なしでじわっとくるような曲も良いと思います。」

（金）

選手の立場としては、入場前から会場が徐々に盛り上がり、入場時に最高潮となる状態が理想です。みんなで合唱しやすいスローテンポの曲がよいと考えており、選手からも入場前に歌ってほしいという声が挙がっています。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「クラブとしてアンセムを提案された意図を教えてください。」

（浦安 D-Rocks）

昨シーズンから選手入場時の楽曲をクラブとして検討してまいりましたが、浦安らしさを表現できる既存の楽曲が見当たらなかったことから、制作の検討を始めました。試合前に合唱を行っている他クラブの事例も参考にしながら、皆さまの想いを歌詞に込め、一緒に歌える曲づくりに取り組んでまいります。

■全体を通して

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「メインスタンドで大きな旗を振っている方々を、応援に活用できないでしょうか。一方で地方開催ではその方々がいない場合もあるため、共通の応援をベースに、ホストとビジターでの違いを考えていく必要があると思います。」

「今は個別のコールが中心で、流れがないと感じます。言う人だけが言うのではなく、皆で反復して続けられる、流れのある応援スタイルを考えてほしいです。」

「選手に『よし、頑張ろう』と思ってもらえる応援をすることが、私たちの使命だと思っています。クラブからご提案いただきながら、私たちもそれに応えていきたいです。」

（浦安 D-Rocks）

いただいたご意見も参考にしながら、ホスト・ビジターを問わず、皆さまと一体となれる流れのある応援スタイルづくりに取り組んでまいります。

（Club D-Rockers 有料会員の皆さま）

「他クラブでは毎試合シャツなどを配布しており、会場がチームカラー一色になっていました。浦安でも皆で応援できる環境が整うと良いと思います。また、以前配布されたシャツは 2 色あったので、チームカラーの統一感も持ってほしいです。」

「スマートフォンのライトを D-Rocks のカラーにできるシールを配布してほしいです。試合後に皆でライトを掲げると、きれいな演出になると思います。」

（浦安 D-Rocks）

チームカラーの統一や配布物を活用した演出についても、参考にさせていただきます。本対話会でいただいたご意見は今シーズンの応援演出づくりに活かし、決定した内容はあらためて皆さまにお知らせいたします。スタジアムで皆さまとともに最高の「ROCKS TIME」をつくってまいりますので、今シーズンも浦安 D-Rocks への応援をよろしくお願いいたします。